

／たのしくたべる／ チューブ、ばいばいさくせん

—胃チューブ・胃ろうがいらなくなるために—

はじめに…

経管栄養(胃チューブ、胃ろうからの注入)は食事です。

楽しく食べるために、「注入が不快でなく、はき気やおう吐がなく、満腹になり、20～30分で終わる」をめざしましょう。

口から食べて満腹になる感覚を育てましょう。

食べ物が口に入るまでの段階も食事なので、注入と同時にこれから食べるものを匂う、触る、見る、聴く、味わう、バランスを整えるチャンスを作りましょう。

食事の時間と空間の感覚を育てましょう。

「〇時になったら、お腹が空いて、楽しく食卓につける」というように、からだに教えましょう。



STEP

1 食事(注入)の時間と空間をデザインしましょう

時間をデザイン

- ほどよく空腹になると、食欲がわいて、食べたくなります。
- 食欲がわくように、ほぼ同じカロリーずつの食事(注入)を決まった時間ごとに与えましょう。
- できれば夜中は注入しないように工夫しましょう。

時間の調整には「パンフレットその2 いつどこで食べる?」をご覧ください。
※裏面下部の二次元コードからダウンロードができます。



空間をデザイン

- 子どもにとっては静かで落ち着く決まった場所がよいでしょう。
- 6ヵ月以降の子どもにとってはキッチンや食べる目的の場所がよいです。食べること以外の気が散るものは片付けましょう(テレビ、ビデオ、おもちゃ)。
- 1歳以降は、昼間はベッドでは食事(注入)しません。



食べやすい椅子

起きている時間帯の食事(注入)姿勢を発達月齢にあわせましょう。

- 6ヵ月まで: 哺乳びんやおっぱいからの授乳の姿勢でお世話する人の腕にかかえると、子どもがその人の顔を見られます。
- 6ヵ月から: ささえれば一人で座れるようになったら、1日1～3回、ハイチェアなどに座らせて食事(注入)をしましょう。
- 9ヵ月から: ハイチェアですべての食事(注入)をしましょう。
- 1歳半から2歳以降: 大人と同じテーブルで、子どもの体格にあった椅子にしましょう。

空間の調整には「パンフレットその2 いつどこで食べる?」をご覧ください。
※裏面下部の二次元コードからダウンロードができます。



2 食べる機能と感覚のトレーニングをしましょう

安心のためのアイテム
落ちついて座れない場合は
小さなブランケットやおもちゃを
もたせてもいいでしょう

はじめに…

注入中に、食事と関係のあるものが口の中に入ることに慣れましょう。

- 6カ月まで ▶ 食べなくていいので、口になにか入れてみます。
例えば、おしゃぶり、歯がためのおもちゃ、哺乳びんの乳首、ママのおっぱいなど。
- 6カ月から ▶ スプーン、ベビーマグ、お皿、ボウル、ぬれぶきん、歯がためのおもちゃ、子どもの指などを口に入れてみます。

つぎに…

注入中に食べ物の自然な匂いや味を楽しみましょう。

このステップは口から量を食べることを目的にしていません。匂う・味わうだけで充分です。
実践する前にごく少量の液体やピューレなどをあげてもよいか主治医に確認しておきましょう。

- 6カ月まで ▶ はじめは大人の指に、母乳、ミルク、水をつけて、子どもの口にたらしけます。
つぎに、乳首の先にミルク・母乳などをつけて唇に軽くあてながら、たらしけます。
受け入れる場合は量を増やして口の中までいれます。
- 6～9カ月 ▶ 母乳、ミルクやベビーフードをボウルやお皿に入れて、スプーンを使い唇・舌先にたらしけます。
または、薄めた乳児用ジュースをしめさせたタオルなどで唇・舌先にたらしけます。
- 8～9カ月から ▶ これらのステップで食べ物に慣れて嘔んだり飲み込んだりできるようになったら、
少しずつ食事のバラエティーを増やしていきましょう。
子どもが受け入れるようなら、噛みきれないくらい硬いもので、手づかみ食べを開始します。

手づかみ食べの方法は「パンフレットその3 いつから・なにをどのようにたべる?」をご覧ください。
※下部の二次元コードからダウンロードができます。



食事(注入)時間のデザイン例

生後10カ月。病院と同じスケジュールで4時、8時、12時、
16時、20時、24時に150mlずつ1時間注入しています。



注入の間、座ってられない時はどうしたらいいですか?

昼夜一定間隔での注入は6カ月以降の乳児では
不自然な食事時間です。30～40分以内に注入
する、起きている時間に合わせて7時、10時、
12時半、15時、18時、21時として、3回は家族
の食事時間と合わせていくと良いでしょう。

注入は食事です。20分座ってられるように
食事する環境をととのえましょう。

時間の調整には「パンフレットその2 いつどこでたべる?」をご覧ください。
※下部の二次元コードからダウンロードができます。

好ましくない行動に注目しないを徹底しましょう。

対応方法は「パンフレットその1 たのしくたべる」をご覧ください。
※下部の二次元コードからダウンロードができます。



いつチューブ栄養をやめられるのでしょうか?

- 身体的・医学的に安定している:経管栄養になった原因が解決し、痛みやおう吐がなく、
間をおいて3回の計測で体重が増えている。
- 飲み込み・呼吸の調和がとれて、楽に呼吸ができる。
- 子どもが必要なカロリーを安全に摂取できるようになっている。
(少なくとも、粒の混ざったピューレ・マッシュのうち1種類は食べられること)
- 子どもが、お腹がいっぱいになるためには口を動かす必要があることを理解している。
できれば、空腹を理解できる。
- 意欲をもってテーブルについて食べられる。
- 必要なカロリーの食品を食べ続けられる。
- 食べることにに対し感覚的に耐えられ、食べるスキルがある。



地方独立行政法人神奈川県立病院機構

【発行元】 神奈川県立子ども医療センター
大山牧子

【予約先】

<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/>

神奈川県立子ども医療センター

検索

パンフレットの
ダウンロード
はこちら

